

第2の故郷仙台

東北ボーリング（株）
代表取締役

倉持 隆



今年で還暦を迎え、この1月11日には信州松本で、1月12日には千葉県市川で、梯子のクラス会に参加するような人物です。いまさらという気もしますが、恒例により自己紹介をさせていただきます。（寄稿文を作成してみると還暦の記念にはなると感じました）

1. 略歴

振り返って住民票で調べてみると、私の住所はつぎの5箇所となり仙台での居住は約22年間となり、腕白盛りを過ごした東京下町の生活期間27年間を下回るようになりますが、表題のようなことになります。

・1943～1970年：東京都葛飾区金町出身
（下町の寅さんで有名な柴又の隣町）

私の生家は、東京と千葉の境を流下する江戸川の川沿いで、祖父の代では江戸川を木材の運搬路として使用した時期もあり、その材木屋3代目3男坊として生まれました。

1967年応用地質株に入社、主に土質試験・港湾調査業務に従事し、約2年間千葉市～葛南沖の埋立事業基本計画作成のための資料整理が記憶に残る業務でした。この業務の中で、深層地下水の岩盤からの揚水による地盤沈下の事例もあるということを知見したことはよい経験と思っています。

現在の本籍地：東京都葛飾区東金町6丁目5142番地

・1970～1972年：埼玉県加須市・鷲ノ宮町（結婚）

東北自動車道（岩槻～館林）の建設に関連する業務に従事

・1972～1978年：仙台市鶴ヶ谷（公団住

宅に住み仙台で一姫二太郎誕生）

土質関連の業務から地すべり・ダム・トンネル業務等の多岐の業務に従事し、7時発くりこまに乗車し、21時過ぎの仙台着のくりこまで下車する日々を過ごしたことが思い出として残っています。記憶によれば、仙台から福岡へ転勤の1978年の2月頃 震度3～4程度の地震があり、大きな地震が来るような気がしながら転勤し、宮城県沖地震の発生を耳にし、極めて驚きました。偏見ですが、大学3年の集中講義で新潟地震の被災事例を受講して以来、論理性にはやや欠けるようですが、私の目の黒い中に必ず東京に大地震がくると確信しています。

・1978～1987年：福岡県大野城市

堤防の越流による激特災害の発生の多い六角川の堤防築造に伴う調査・解析・動態観測（担当現場でない箇所での築堤が、因果なことに土曜日にすべり破壊し、日曜日から現場作業となったことがあり、無情を感じたことが数回ありました）の経験は、その後のパイルネット工法、DJM工法等の試験施工へ繋がり、よい知見を得ることができました。地下鉄建設に伴う地下水の影響調査・解析・観測も毎年の業務であり、水理条件あるいは地下水の変動は、10年程度の観測期間を経なければ、理解し難いことを体験しました。この間九州地方の特殊土としてサンゴ混じり土あるいはシラス、マサ土を経験したことは、極めて有益でした。

・1987～2003年：黒川郡富谷町（仙台市の水道を使用のため、仙台在住とする）
当社へ出向・転籍に伴い15年が過ぎ、

昨年より当社のボスとして調整役をし、この厳しい業界の中での生き残りに苦戦中で、サンドバックのように打たれ強くなりつつあります。なお、この業界では地盤工学会・応用地質学会などでの活動に限定され、協会活動のお手伝いは未経験であり、この度の寄稿文の提出に際しても関係者に大変ご迷惑をお掛けしましたことを、紙面をお借りしてお詫び申し上げます。

2. 生業の始まり

建設関連業とするこの業界に入り、地質調査などを生業とする契機はいろいろ考えられますが、赤い糸で引っ張られるように次の3つの分岐点が予想されます。

- ・上記のクラス会を千葉県市川で行う高校での3年の時、友人と秩父にハイキングし、亡父と富士山へ吉田口より登山し、山での昼寝が気持ち良いことを知り禁断の実を味わい、山に興味ができたこと。
- ・高校3年の担任が数学教師で、かつ私の囲碁のお師匠さんです。その母校に地学科地質学鉱物学学科があったこと。
(将棋は東京下町の縁台将棋として早くから覚えました。囲碁はこの時が初手合いで、井目風鈴で試み異質な世界を覚えました)
- ・大学4年の卒業時、現在の不景気とは質の違いがありますが、オリンピック後の不景気で就職も決まらず、記憶では10月頃の教育実習中、卒論指導の故須藤教授より話があり、友人に靴と靴下を借りて面接し応用地質(株)に入社した経緯である。加えて、入社した業務の上司に、土質のお師匠さんがおいで

になり、今日まで35年間長続きたことに、自分自身驚きを隠せません。

3. 現況

娘・息子は結婚のため住居を別に定め、三人の老人と二人の老猫・一人の老犬での住は、アニマルセラピー・アロマセラピーの老人家屋と化しています。

現在の楽しみの一つに陶器・磁器を購入することがあります。福岡に9年間に住したこともあり、いまでも5月の連休に有田陶器市に時々行き、気に入った物を購入します。

その後その製品の価格が高くなれば、目が肥えてきたと一人で悦な気分になり、その製品が見つからなければ、どうしたかと気を揉み散策する時は、趣致の時です。

1987年に再度仙台に赴任した時点で、入社時の体重60kgが1年毎の正月の寝正月により1kgずつ増えた結果80kgを超え、悲惨な体型に驚き、週末に1回スポーツクラブに通うことを課して、現在75kg程度の状態をやっと維持することに努めています。このスポーツクラブに通うことで得た知識は次の2点です。

- ・2~3週間の間隔でスポーツクラブに通うと、その時掻く汗の匂いが臭いこと及び体力の衰えを意識せざるを得なく、その回復には無理があること。